

在学中の学業の成果に関する奈良女子大学卒業生・修了生への調査結果

平成 28 年 7 月 奈良女子大学 評価企画室
学長調査戦略室

調査概要

実施時期：平成 27 年 6 月～7 月

調査対象：平成 17 年 3 月～27 年 3 月までに本学を卒業・修了した一般社団法人佐保会
(奈良女子大学同窓会) 会員 4040 名

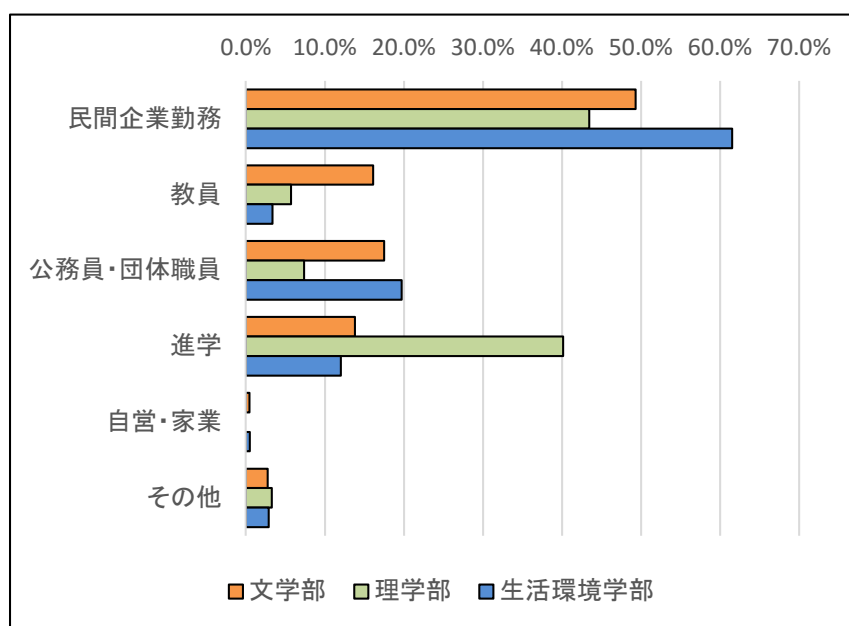
回答者数：712 名 (文学部 218、理学部 122、生活環境学部 208、博士課程前期 140、
博士後期課程 21)

進路選択

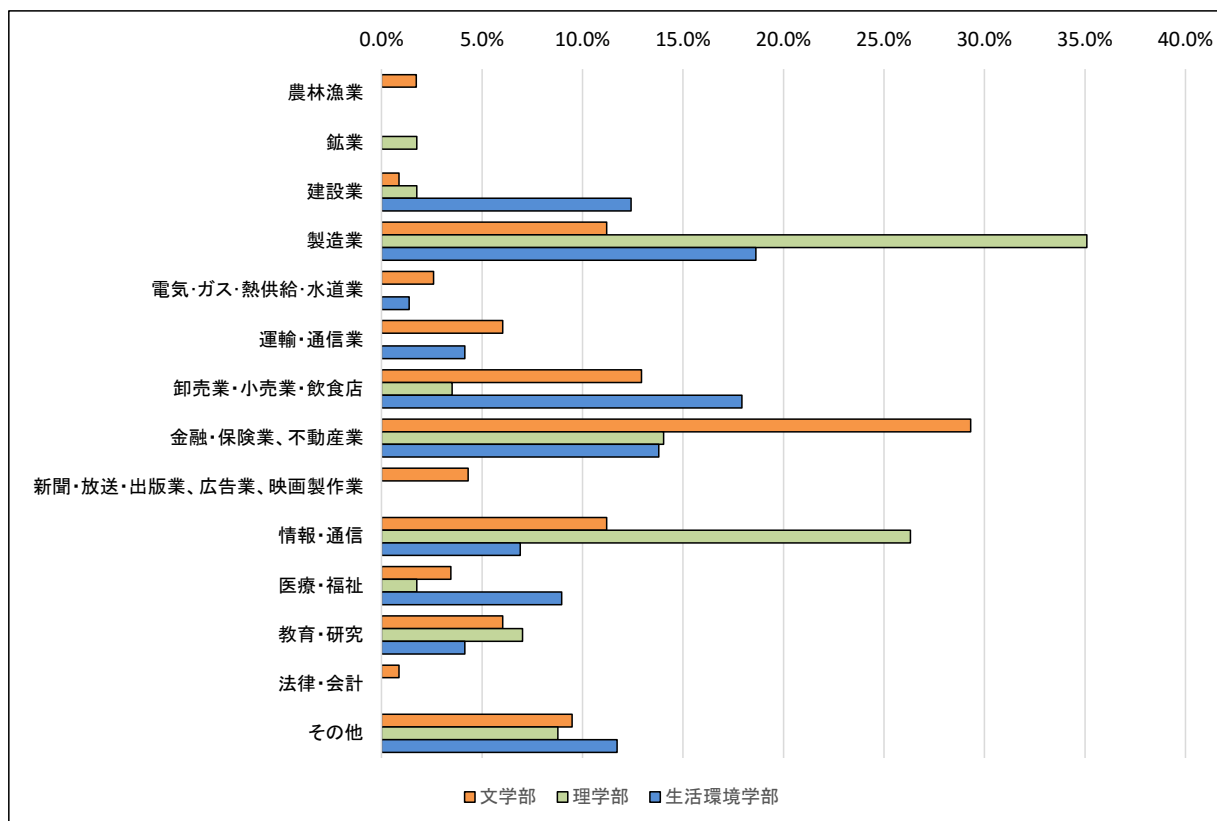
まず、学部生の進路選択についてです。卒業直後の進路 (図 1) としては、全学的に民間企業に就職するものが多かったのですが、文学部では教員・公務員が多いのに対し、理学部では進学率が非常に高くなりました。生活環境学部では、公務員が最も多かったものの、他の項目との大きな差はなく、進路選択を幅広くおこなっていることがわかりました。

また、業種内訳 (図 2) では文学部が金融・保険業、不動産業、理学部は製造業、情報・通信、生活環境学部では上記と同様幅広い業種で就業していることがわかり、学部の個性が反映されていました。

(図 1) 卒業直後の進路

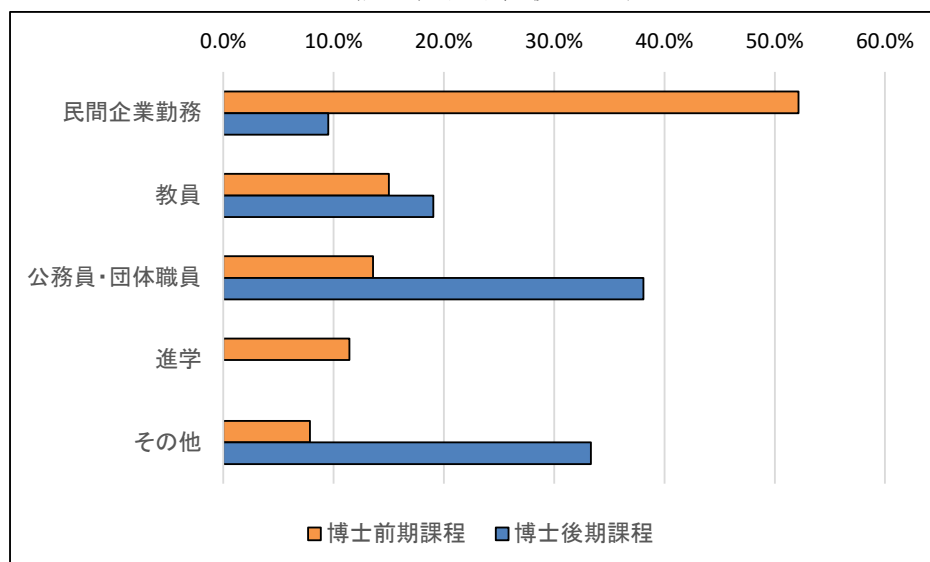


(図2) 卒業直後の進路 (業種)

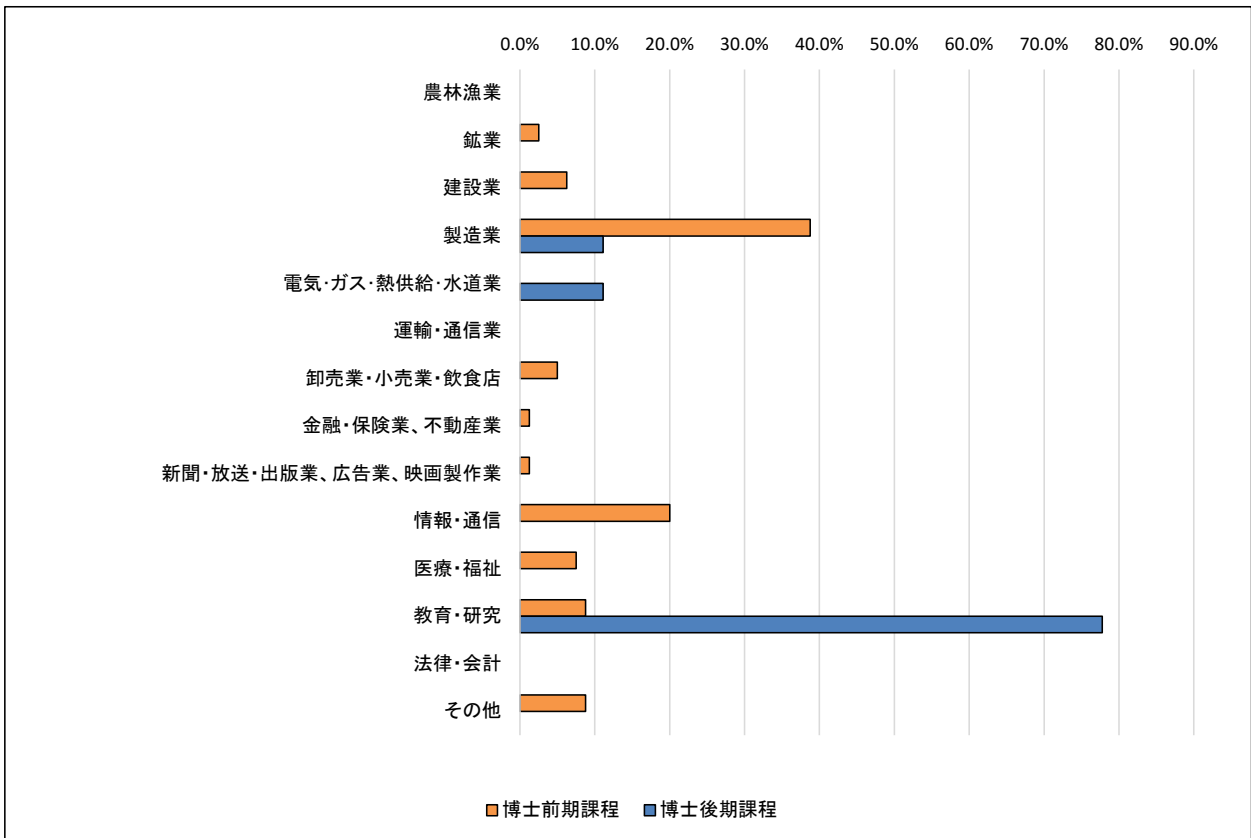


大学院についてしてみると、修了直後の進路について、博士前期課程では民間企業が、博士後期課程ではその他に「研究員」や「ポスドク」といった回答があり、博士後期課程が研究者養成の役割を果たしていることがわかりました。また、業種別に見ると、博士前期課程が製造業、後期課程が教育・研究といった業種の割合が高く、ここからも専門を活かした進路選択を行っているといえます。

(図3) 修了直後の進路



(図4) 修了直後の進路(業種)



卒業・修了直後の進路と現在の進路を比較すると、79.7%の人が卒業・修了から現在まで大きな進路変更はないことがわかりました(図5)。現在と卒業・修了直後の進路に変更があった人の中には、民間企業から専業主婦もしくは公務員・団体職員というものが多く、女性として多様なキャリアパスから自分に合うものを選択していると考えられます。

(図5) 卒業・修了直後の進路と現在の進路

		卒業・修了直後の進路							計
		民間企業	公務員・ 団体職員	自営・家業	教諭・保育士	進学・留学	専業主婦	その他※	
現在の 進路	民間企業	295 41.6%	3 0.4%		1 0.1%	22 3.1%		1 0.1%	322 45.4%
	公務員・ 団体職員	24 3.4%	102 14.4%	1 0.1%	1 0.1%	9 1.3%		5 0.7%	142 20.0%
	自営・家業	6 0.8%	1 0.1%	7 1.0%		2 0.3%	1 0.1%		17 2.4%
	教諭・保育士	5 0.7%	2 0.3%		61 8.6%	2 0.3%		1 0.1%	71 10.0%
	進学・留学	3 0.4%	2 0.3%		2 0.3%	78 11.0%			85 12.0%
	専業主婦	26 3.7%	2 0.3%		4 0.6%	3 0.4%	4 0.6%	1 0.1%	40 5.6%
	その他※	5 0.7%		1 0.1%	3 0.4%	5 0.7%		18 2.5%	32 4.5%
	計	364 51.3%	112 15.8%	9 1.3%	72 10.2%	121 17.1%	5 0.7%	26 3.7%	709 100.0%

※その他の内訳

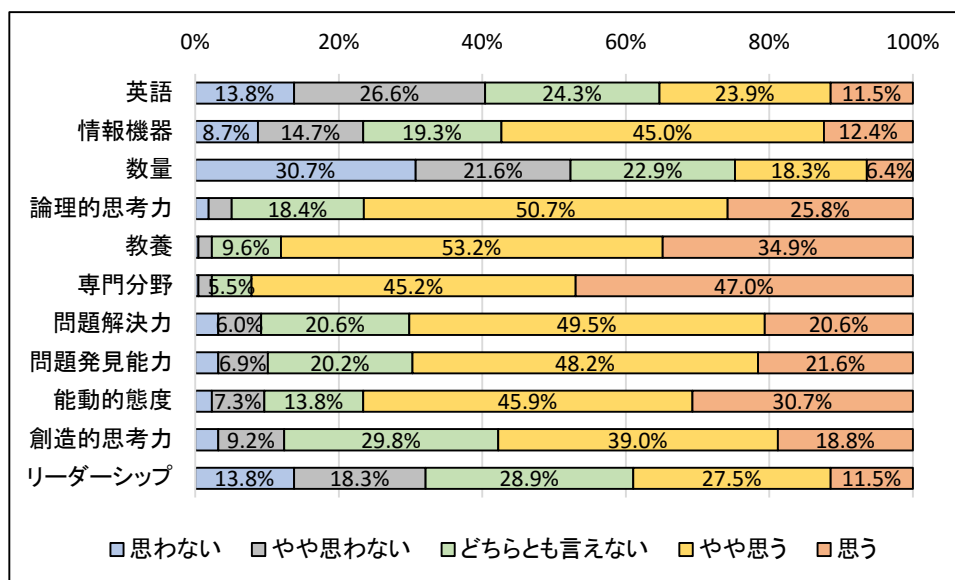
卒業生 フリーター、学童指導員、公務員試験受験中、無職、短大講師、大学講師、研究員等

修了生 博士研究員、大学助手、大学教員、アルバイト、ポスドク等

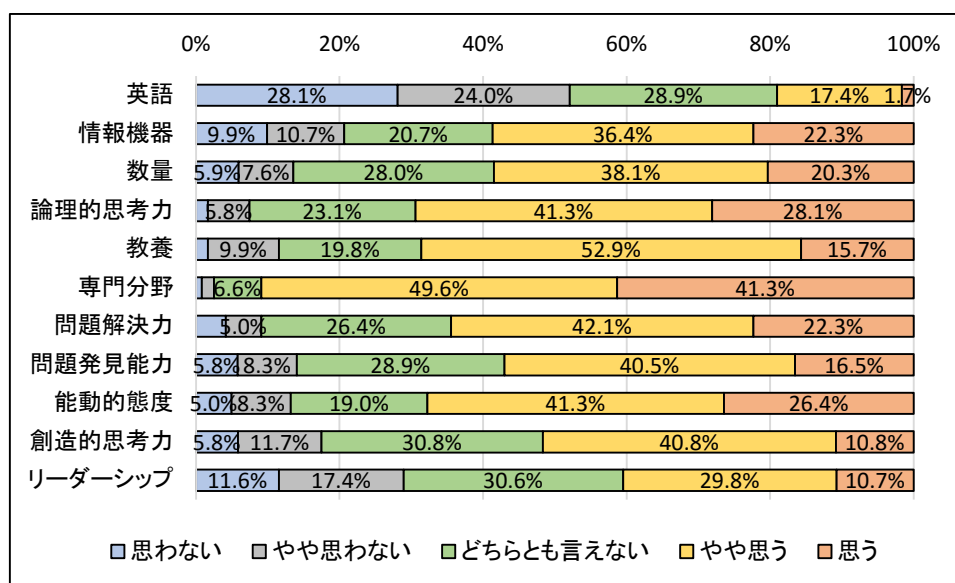
在学中の学業成果

在学中の学業成果に関して、学部と大学院、すべての内訳を示したものが図6から図10です。学部・大学院での比較は後述します。

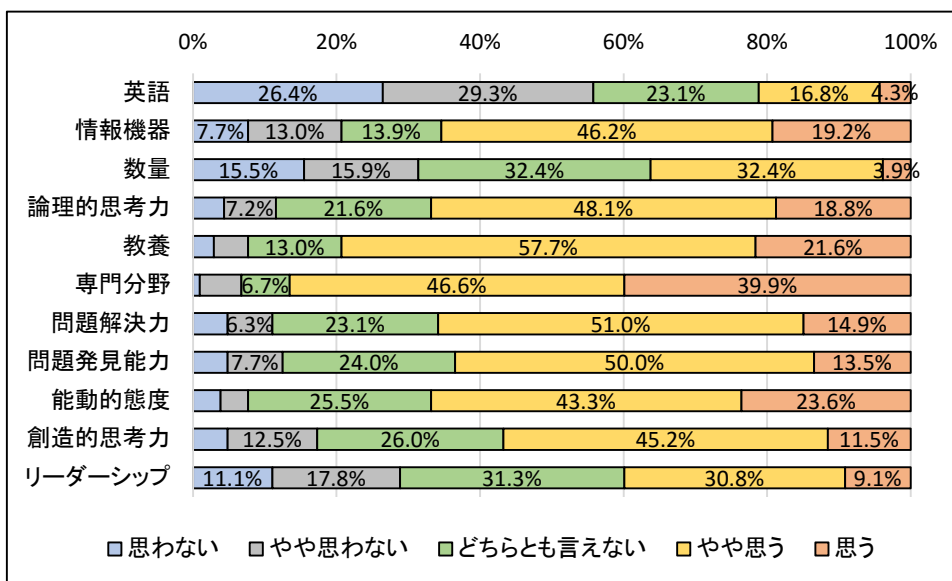
(図6) 在学中に身についた能力 (文学部)



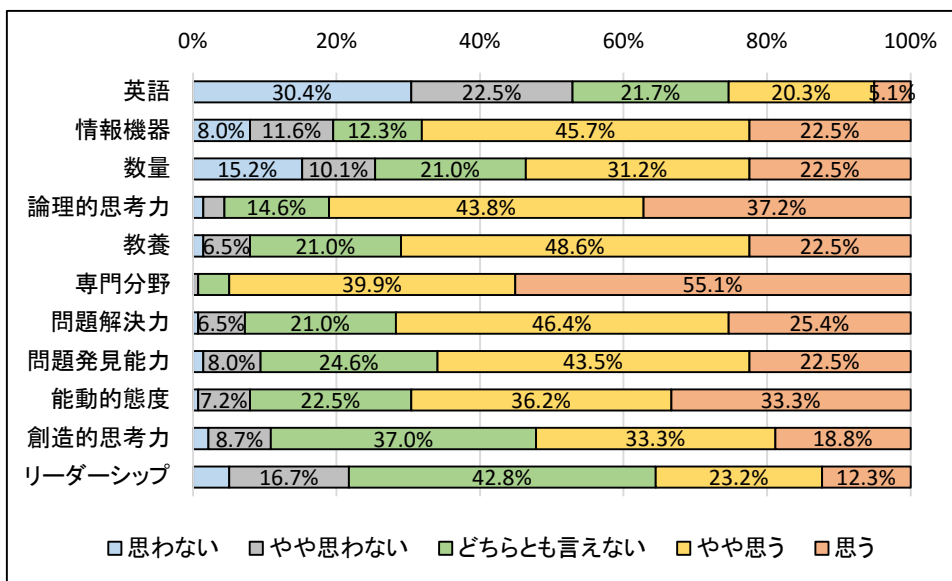
(図7) 在学中に身についた能力 (理学部)



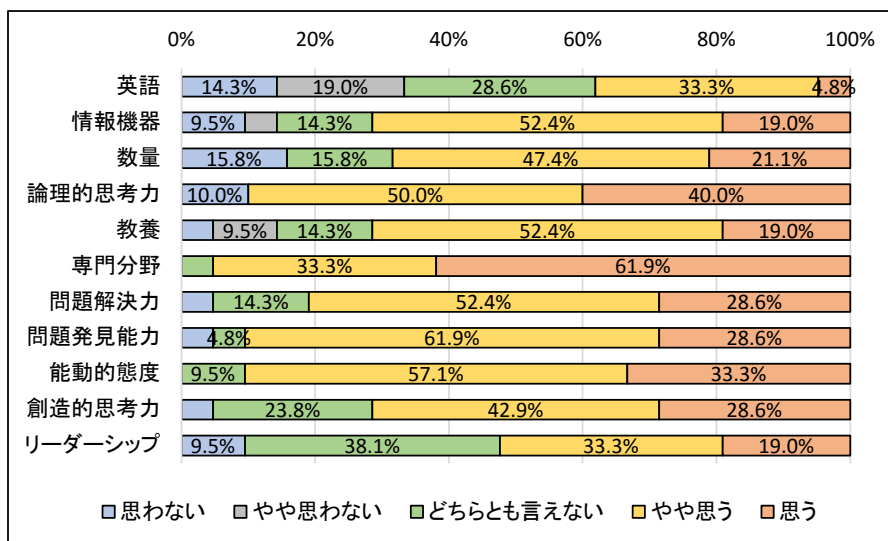
(図8) 在学中に身についた能力 (生活環境学部)



(図9) 在学中に身についた能力 (博士前期課程)

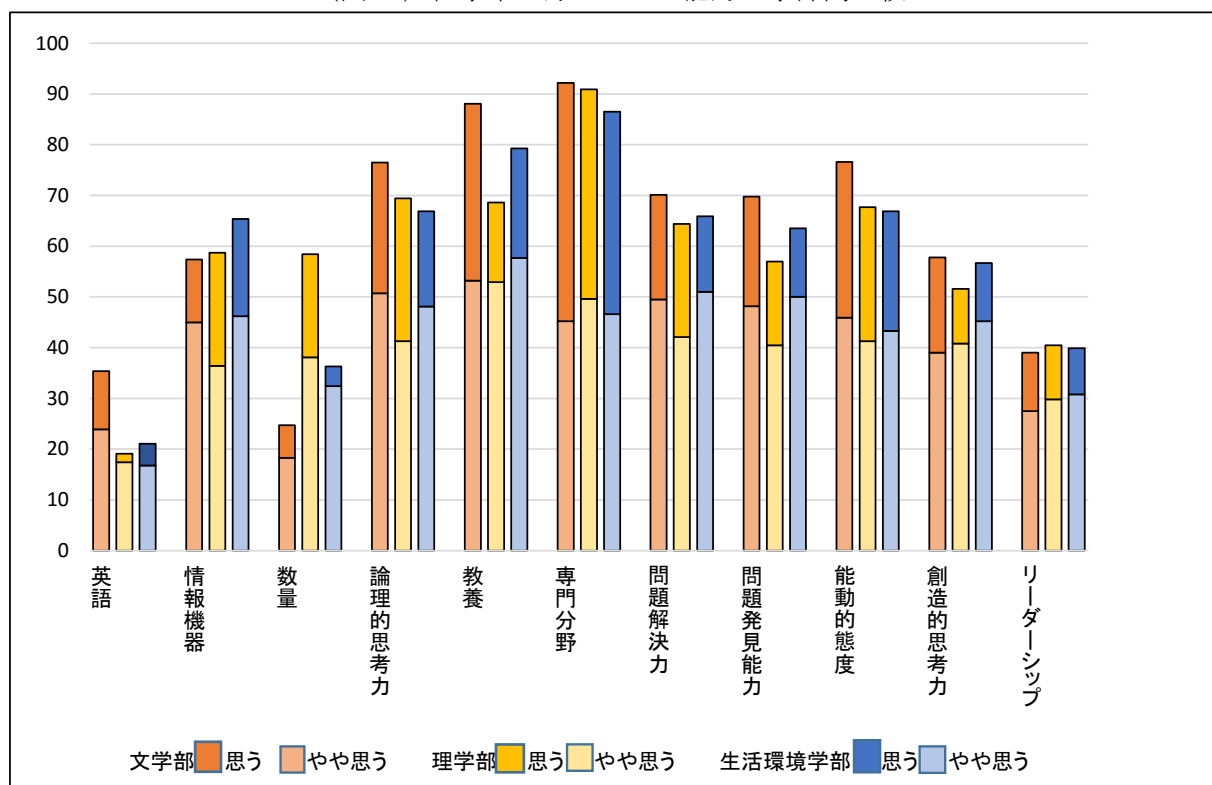


(図 10) 在学中に身についた能力 (博士後期課程)



次に3学部の卒業生が在学中に身についたスキル・能力の各項目について、「思う」・「やや思う」を合計した割合を比較しました(図 11)。専門分野や能動的態度、教養といった項目は一律に高い傾向がありますが、英語や数量では学部ごとの差がみられます。情報機器については、大学においてレポートを書く機会があることや、共通科目として情報処理入門などの情報教育に関する科目があることから、ばらつきが少ないと考えられます。

(図 11) 在学中に身についた能力の学部間比較



また、学部・博士課程前期・博士課程後期で同様の比較をおこなったところ、教養を除くほとんどの項目で、学部から博士前期課程、後期課程へと能力が身につけていると感じていることがわかりました。

(図 12) 在学中に身についた能力の学部・博士課程前期・博士課程後期の比較

